

「みずかがみ」の外観品質、食味 ならびに収量向上技術の定着

大津・南部農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

J Aレーク大津管内では、「レーク65」からの作付転換品種として、平成27年度より「みずかがみ」の作付を本格的に推進しています。しかし、「みずかがみ」の平成27年度の1等米比率は69%で、「レーク65」代替品種として競合が予想された「キヌヒカリ」と比較しても大きな優位性が見られない状況でした。

そこで、「みずかがみ」の品質および収量の向上を目指し、J Aと連携し、管内生産者への適切な栽培管理の実践に向けた支援を行いました。

【普及活動の内容】

①実証ほの設置と現地研修会の開催

稲の生育、病虫害の発生状況を確認するためJ A営農指導員と連携して実証ほを設置し、定期的に調査を行い、関係者間の情報共有を図りました。あわせて、6月と8月には、同J A管内2か所において、実証ほを活用した現地研修会を開催し、生産者への生育状況に応じた栽培管理の徹底を図りました。

②情報誌の発行

生育や気象状況、今後の栽培管理等に関する情報紙を、2回発行し、現地研修会で活用するとともに、生産者へ配布しました。

③次年度に向けた広報

次年度のさらなる品質、収量の向上や生産拡大に向け、生産者を対象に、J Aの広報誌やHPを活用し、平成28年の調査結果をもとにした次年度における改善点の周知や、生産拡大にむけた働きかけを行いました。

【普及活動の成果】

J Aとの連携による普及活動の結果、生産者により適切に栽培管理が実施され、夏期の気温が高温であったにもかかわらず、「みずかがみ」の1等米比率は88%と高く、レーク65代替品種として競合が想定された「キヌヒカリ」の倍以上となり、品質上の優位性は大きなものとなりました。

収量面での課題は残りましたが、これまでの普及活動により、生産者はもとより、関係者においても「みずかがみ」の品種特性に対する理解が進みました。次年度以降のさらなる品質の向上が期待されます。



写真1 「みずかがみ」生産者に対する現地研修会



写真2 J Aのホームページによる広報

◎対象者の意見

おいしい「みずかがみ」を安定して収穫するために、気象の変動に応じた栽培方法（施肥、水管理など）をこれからも研究したい。（「みずかがみ」生産者）